

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 2年 9月12日
(88号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第89講

「禪の教えに学ぶ」
「怨親平等の思想について」
横田南嶺老師



■エルトゥール号と 怨親平等の思想

「怨親平等」は、今の時世であるからこそ、知っておかなければならない思想ではないかと思えます。「怨」とは「敵」、「親」は「身内、味方」を表わします。仏教辞典には「敵も味方も平等に供養すること」と説明されています。国際情勢を見ると、怨みに対して怨みに報いる、報復の連鎖ということが未だにあります。しかし、この「怨親平等」は日本に古来からあった思想なのです。

今年は二〇二〇年、和歌山大島で座礁したエルトゥール号の事故から一三〇年の年です。一八九〇年、親善使節団六百人以上を乗せたオスマン帝国の軍艦エルトゥール号は、横浜から次の寄港地に向かう途中、嵐に遭い、紀伊大島沖で船甲羅岩礁に激突、沈んでしまいます。船から投げ出されたトルコの人々を村中の人たちが自主的に必死に救い、それは後の日本とトルコの友好関係にまで結びつきました。トルコの人々を救うために、村長は間髪を入れず医師を差し向け、村人たちは自分たちにとっても大切な食料をも差し出し、その救助活動は内容もスピードも絶賛すべきものでした。こうして六九名の負傷者は無事に本国へと帰ることができたのです。村の人々は亡くなったトルコの方の遺体を埋葬し、後に碑を立てました。トルコではこの話を後世に伝えていきました。それから九五年後の一九八五年、イランイラク戦争の最中、イラクのフセイン大統領が四八時間後にイラン上空を飛ぶ飛行機は全て撃ち落とすという声明を出します。イラン在住の外国人は避難を始めますが、日本は法制上の問題などから飛行機を出

すことができません。そんな中「エルトゥール号で受けた御恩を決して忘れていません」と、トルコの救援機により、テヘランに取り残された二一五人の日本人は無事脱出できたのです。それはタイムリミットの一時間前のことです。助け合いの精神は国境を越え、時をも超えました。

今の時代では一瞬にしてあらゆる情報が得られます。しかし、当時村の人は、何も解らない状況で、自分のことを後回しにして、目の前にいる人たちに手を差し伸べている。

小泉八雲が『日本の面影』に「日本人ほど幸せに生きるとはどういうことを心得ている人たちは他の国にはいないであろう」と書いています。なぜなら「人生の喜び幸せは、周りの人たちの幸福にかかっている」と。周りの人たちが幸せになることが幸せになることだと、日本人は解っている。そのために「無私と忍耐を培う必要があることを日本人ほど広く一般に理解している国民は他にはないであろう」と書かれてあります。

当時、村人たちはみな目の前の困っている人を見捨てることなどできない気持ちを持っていた。この気持ち、この感情こそが「怨親平等」の元々の意味です。

■視座を高める

「砂に一本の線を引いたと勝手に私たちの頭には「こちら」と「あちら」の感覚が生まれます。この感覚が育つていくと本当の姿が見えなくなります。」

(ダライ・ラマ)

広い地球上も一枚のものだったのが、国と国とに分けられていった



のですが、線を引いて区別差別をすることで、大切な本質が見えなくなるといふことなのでしょう。「仏さんのお心の中には、おらげ(私)の他人げのって区別はないけんう」(足利源左)

源左さんは浄土真宗の妙好人と言われる人で、傍目から見て決して幸せな人生とはいえないが、何があっても「ようこそ」「有り難い」と言っていたそうです。あるとき土砂降りにあった源左さん、着いた寺の和尚さんに「ひどい目にあつたね」と言われると「いやあ、有り難い、有り難い。鼻の穴が下向きなので雨が入らず助かりました」。まさに感謝する力です。視点をどこに置くか。

視座を高めること、仏様の目から見たらなら善悪の区別はない。自分も他人も善人も悪人もないのに、我々は垣根を作りその内側だけを大切にしているのか。そんな垣根など無い、としているのが般若心経にある空の思想です。垣根など幻、みな地続きで一つなのだ伝えていきます。

鈴木大拙は「分割は知性の性格」とし、「分ける」と分けられたものの間に争いが起こるのは当然」とした。「分かる」というのは「分ける」ということであるが、自分(主)と外の世界(客)を分けると比較、問題が生ずるのです。その果てに強いものが弱いものを征服する「侵略主義」が実現すると大拙先生は言われます。

『法句経』の中で釈迦様は、「怨みは怨みによって止むことはない。それは報復の連鎖を生むであろう。怨まないということによつてのみ、怨みは消え、心の平安を得る」と言われています。

今の時代、対立はやむを得ない場合もあるでしょう。ただ対立を超える仏様の眼、平等に接する心、敵も味方も平等に祈ろうとする心は失ってはならないと思うのであります。

(抄録 中川千都子)

秋季宿泊研修の案内



11月14日(土) ～ 15日(日)
 集合 午後0時 解散 午後0時
 場所：伊勢修養団青少年研修センター

日程(予定)

14日(土曜)

午後11時30分 ～ 受付
 午後12時30分 ～ 開講式
 午後13時00分 ～ 童心行
 午後14時00分 ～ 講話 中山 緑氏

基本カリキュラム

第一講 高山良二氏
 「平和の種になりたい～地雷原の村で挑戦～」
 グループ討議

午後17時45分 ～ 水行の予行(説明等)
 午後18時30分 ～ 夕食
 午後19時30分 ～ 水行
 読書会(水行不参加の方)
 午後21時30分 ～ 入浴
 午後22時00分 ～ 懇親会

◆ 服装：特別参拝用の正装(男性はスーツ・ネクタイ・革靴、女性にはスーツや礼装など)
 ※ 女性の方はなるべくジャケットをご着用ください。
 また、ハイヒールやブーツは不可です。

15日(日曜)

午前6時 ～ 起床
 午前6時30分 ～ 神宮特別参拝(内宮御垣内)
 午前8時00分 ～ 朝食

基本カリキュラム

第二講 武田数宏氏(修養団研修センター所長)
 「今を生る!!」
 グループ討議

午前11時30分～閉講式
 午後12時 解散

■ 持ち物：トレーニングウェア等の運動に適した服装、着替え、タオル、洗面用具等
 ※水行は必修ではありませんので、体調に合わせて「水行無し」でのご参加可能です。
 不参加の方は、「読書会」を行います。

【コロナに打ち勝とう】 「悩みはあってあたりまえ。それは生きている証」 松下幸之助翁



こんにちは😊
 このところコロナさんのせいで集まりはとても低調です。昨日は10人しか参加者がいなかったです。
 お世話役のお話では、先月は7人、先々月も同じ7人の参加者だったとのことでした。
 コロナや台風の影響で、当分はこのような状態が続くと思います。集めた塵も纏めると4袋しか集まりませんでした。
 塵も少なくなっています。
 お天気は快晴で、朝からとても暑い日でした。
 夏の間は朝8時から9時迄実施しています。
 お気軽に越してください。

《淀川掃除に学ぶ会》(短信 志村隆夫)